

季節外れのサクラの話

市内の丘陵を歩いていると、とてもサクラが多いと感じます。このことはたびたび森林レンジャーがゆくに書きましたが、やはりヤマザクラを中心にとくさんのサクラが見られることが市内の丘陵の特徴です。

すべてのサクラを直接見てきたわけではないので推測の域を出ませんが、株立ちのサクラが多く、かつて薪や炭に利用するために切られたと思われる。コナラやサクラは切り株から再生（萌芽更新）する力が強く、切られても再生する樹種です。そのため、秋川や菅生の丘陵では、薪や炭に雑木林を利用してきた結果、これらの高木が優先的

に再生して残ったものと考えられます。

秋川丘陵（サマーランドの南側）コースの尾根道（3キロ弱）を歩きながら、目視で273本ほどのサクラを確認しました。本来のサクラの樹形は、浅いスーパ皿を逆さまにかぶせた様な半球形の樹冠を作る木ですが、尾根道周辺の林内では周りのコナラなどに挟まれ、竹ぼうきを逆さまにしたような樹形（被圧による樹形の極端な乱れ）で、枝数も少なく、大きな樹冠を作れていません（樹冠閉塞）。当然、花数も少なくなります。

秋川丘陵以外にも、金比羅尾根、菅生丘陵などのサクラも同様の状態にあります。サクラの周りの競合する木々を管理して健全な樹形が維持できるようにすると、サクラの花を楽しめる所がもっと増えると考えています。また、ヤマザクラなどは、ソメイヨシノと違

い実をつけます。食用のさくらんぼに比べると小さく貧弱で、酸味や渋みが強いので人間が食べてもおいしいのですが、実ができる初夏には、アオバトやヒヨドリなどの鳥類が枝にとまり実を食べています。また、熟れて落下した果実は、テンやタヌキが食べているようで、フンに沢山の種が確認できます。

春に私たちの目を楽しませてくれるヤマザクラは、初夏には多くの生き物たちの腹を満たしています。ここに人と自然の共生の一つの形があると思っています。（杉野）



木立の中のヤマザクラ